

後 期 日 程

本 2024

令和 6 年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

教育学部
学校教育課程
小中連携教育コース

－ 解 答 上 の 注 意 事 項 －

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 問題冊子のほかに解答紙1枚と下書き用紙1枚がある。
- 3 解答は横書きとする。
- 4 解答紙を提出すること。
- 5 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

【問題】

右のページに掲げたのは、「15項目の社会情動的スキル」と「3つの教科(国語／数学・算数／美術)の学力・成績」との関連についての国際調査結果である。この調査結果を見て、次の2点について、あわせて800字以内で論じなさい。調査結果の読解にあたっては、下記の＜グラフの見方＞を参考にしなさい。

- (1) 15歳児調査と10歳児調査のあいだで結果に顕著な違い(差)がある項目がいくつかある。その中から、あなたが注目した項目を一個ないしは複数、挙げなさい。
- (2) 上記(1)で挙げた項目について、このような調査結果になった背景要因として想定されること、および、今後この結果を学校教育において活かしていくための方法について、あなたなりに分析・考察したことを述べなさい。

＜グラフの見方＞

- (a) 右ページの2つのグラフは、世界8都市(日本は含まれない)において「15歳児」と「10歳児」を対象に実施された、「社会情動的スキルと3教科(国語／数学・算数／美術)の学力・成績との関連」についての国際調査結果である。調査は2019年に実施された。なお、各都市間の偏差を調整するため、標準化という統計上の処理を施したうえで、8つの都市すべての結果が一つのグラフに集約されている。
- (b) 15項目の社会情動的スキルのそれぞれの棒グラフは、左から「国語」「数学・算数」「美術」の成績係数を示しており、この成績係数(棒グラフ)がプラスである場合、その社会情動的スキルとその教科の成績のあいだに正比例の関係(そのスキルが高いほど、その教科の成績も良い)があることを意味する。逆に、成績係数(棒グラフ)がマイナスである場合には、その社会情動的スキルとその教科の成績のあいだに反比例の関係(そのスキルが高いほど、逆にその教科の成績は悪い)があることを意味する。
- (c) 15項目の社会情動的スキルのそれぞれの内容については、3ページ目の一覧表を参照のこと。

【引用文献】

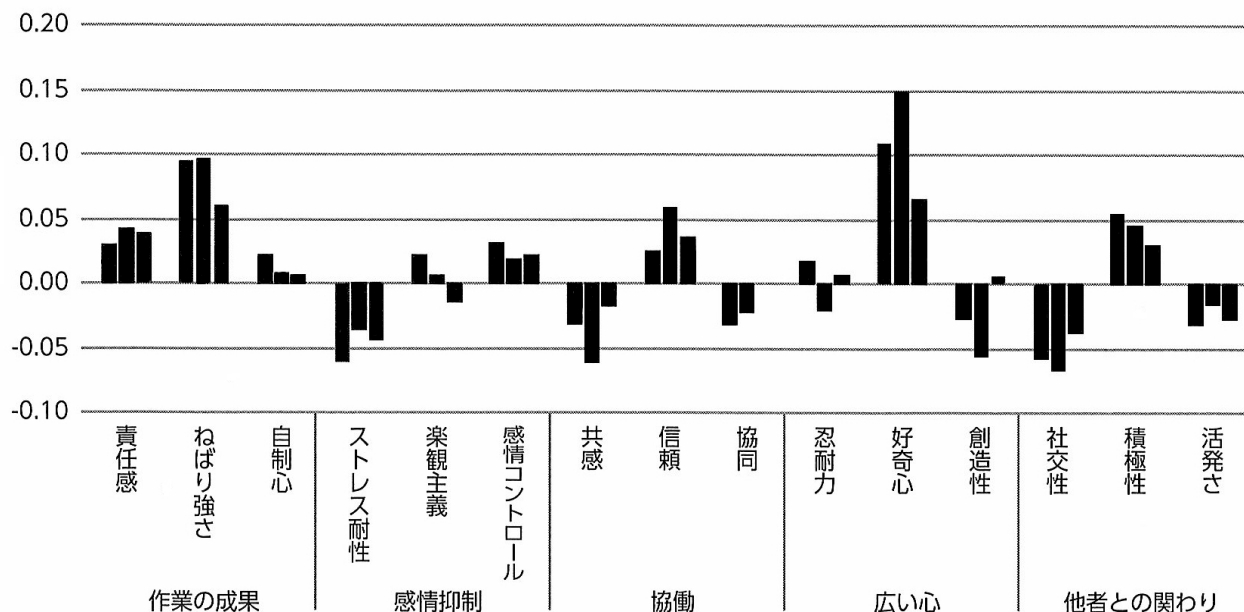
経済協力開発機構(OECD)『社会情動的スキルの国際比較——教科の学びを超える力(第1回OECD社会情動的スキル調査(SSS)報告書)』(矢倉美登里・松尾恵子訳、明石書店、2022年)

- *1: 右ページのグラフは本書84-85ページより、社会情動的スキルの一覧表は本書49ページより、それぞれ転載。
- *2: なお、出題の都合上、転載時に一部改変を加えた。
- *3: 本調査の対象となった世界8都市は以下の通りである。ボゴタ(コロンビア)、テグ(韓国)、ヘルシンキ(フィンランド)、ヒューストン(アメリカ)、イスタンブール(トルコ)、マニサレス(コロンビア)、モスクワ(ロシア)、蘇州(中国)。

15歳児

社会情動的スキルと学業成績の関連（15歳児）

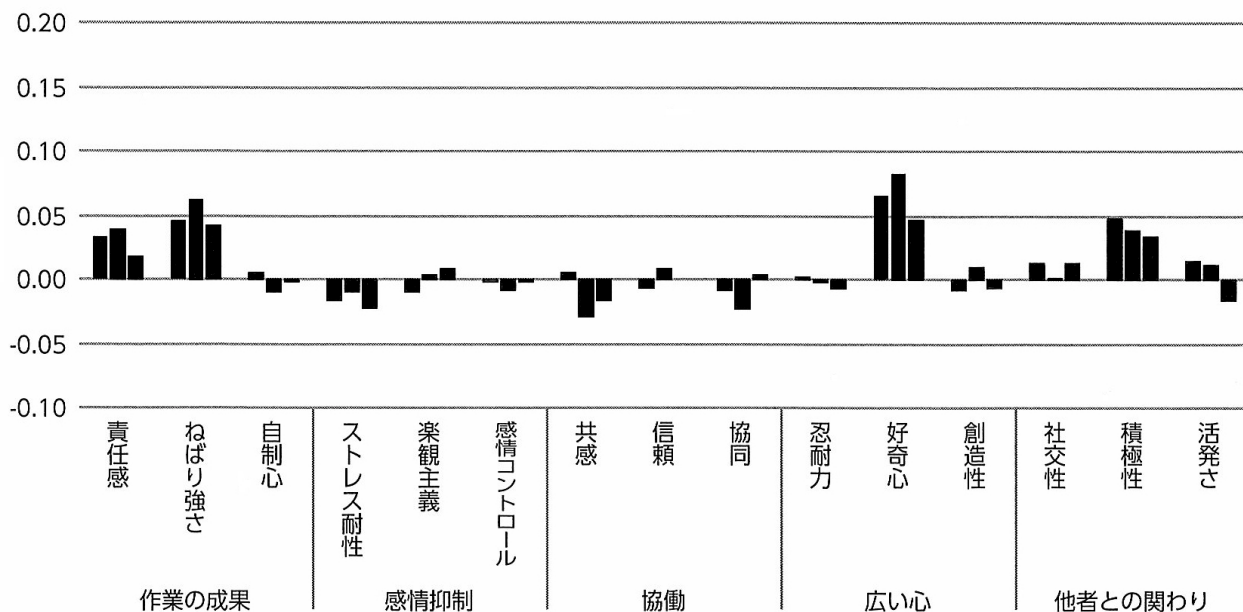
社会情動的スキルの尺度の（標準化）スコアに対する国語、数学、美術の（標準化）成績の係数（国際平均）



10歳児

社会情動的スキルと学業成績の関連（10歳児）

社会情動的スキルの尺度の（標準化）スコアに対する国語、算数、美術の（標準化）成績の係数（国際平均）



（次の注記は両グラフに共通）

注：社会情動的スキルの各項目における棒グラフは、左から、国語、数学・算数、美術を示す。

なお、15歳児の「協同」と、10歳児の「信頼」については、それぞれ「美術」の成績係数が、限りなくゼロ(0.00)に近い。

社会情動的スキル調査 (SSES) の対象スキルの説明

因子	スキル	説明	行動例
広い心 (経験への開放性)	好奇心	考えへの関心、向学心、理解と知的探究、知識欲旺盛な思考態度。	読書や新たな目的地への旅行が好き。 逆の例：変化が嫌い。新製品を探ることに興味がない。
	忍耐力	さまざまな観点に進んで立つ、多様性の尊重、外国の人々や文化をよく理解している。	背景が違う友人がいる。 逆の例：外国人や背景が違う人が嫌い。
	創造性	探究や失敗からの学習、洞察、直観力によって新しい方法や考え方を編み出す。	独創的な洞察がある。高く評価される手工芸品や芸術品を製作する。 逆の例：月並みに行動する。芸術に興味がない。
作業の成果 (誠実性)	責任感	約束を守ったり、時間を厳守したりできて、信頼できる。	約束の時間どおりに着く。日課をすぐにこなす。 逆の例：取り決め／約束を守らない。
	自制心	個人的な目標を達成するために、注意散漫や突然の衝動を避け、現在の作業に注意を集中できる。	重要な作業が完了するまで、楽しい活動を先送りにする。性急に事を進めない。 逆の例：熟慮せずにものを言いがちである。暴飲する。
	ねばり強さ	完了するまで作業や活動をためえず続けられる。	着手した宿題や仕事を完了する。 逆の例：障害／注意をそらすものに直面すると、すぐに諦める。
他者との関わり (外向性)	社交性	友人であれ、他人であれ、他者に近づき、社会的つながりをつくって維持することができる。	共同作業に長けている。人前で話すのが得意。 逆の例：大人数のチームとの協力に苦労することがある。人前で話すのを避ける。
	積極性	自信を持って意見や要求、気持ちを声に出し、社会的影響を及ぼすことができる。	クラス内やチーム内で他者の面倒を見る。 逆の例：他者の先導を待つ。意見が合わないときは、沈黙を守る。
	活発さ	精力的にわくわくしながら、のびのびと日常生活を送る。	常に忙しい。長時間労働する。 逆の例：身体的な原因がないのにすぐに疲れる。
協働 (協調性)	共感	他者を理解し、その安寧を気に掛ける。親密な関係を大事にして心を注ぐ。	動揺している友人を慰める。ホームレスに同情する。 逆の例：他者の気持ちを誤解したり、無視したり、軽視したりしがちである。
	信頼	他者は一般に善意を抱いていると考え、過ちを犯した者を許す。	人に物を貸す。厳しい態度や批判的態度を取らないようにする。 逆の例：対人関係で隠し立てをしたり、疑ったりする。
	協同	他者と仲良く暮らし、すべての人々の相互の結びつきを大事にする。	人と簡単に仲良くなる。集団が下した決定を尊重する。 逆の例：他者と議論や衝突に陥りがちである。妥協しない傾向がある。
感情抑制 (情緒安定性)	ストレス耐性	不安を効果的に和らげ、問題を冷静に解決できる（気を楽にして、ストレスにうまく対処する）。	たいていリラックスしている。プレッシャーを強く感じる状況で良い結果を出す。 逆の例：心配事があることがほとんどである。なかなか寝つけない、よく眠れない。
	楽観主義	自分自身と人生全体についての前向きで楽観的な期待。	たいてい機嫌がいい。 逆の例：悲しい気分のことが多い。不安を覚えたり、自分は価値のない人間だと感じたりする傾向がある。
	感情コントロール	不満を感じたときに腹立ちや怒り、苛立ちを抑える効果的な方法。	葛藤状態で感情をコントロールする。 逆の例：すぐに動揺する。むら気である。